

まゆだま

2012. 8. 30

No. 357

連絡先：高田（八王子一小）
東京歴教協 八王子支部

平成二十四年 九月号

～ 大飯原発の再稼働からもうすぐ2ヶ月。この夏はいかがでしたか？このお手紙が届く頃には慌ただしい日常が戻ってきていることと思います。健康第一でお過ごし下さい。そして、歴教協八王子支部の活動も、引き続きよろしくお願ひ致します。～

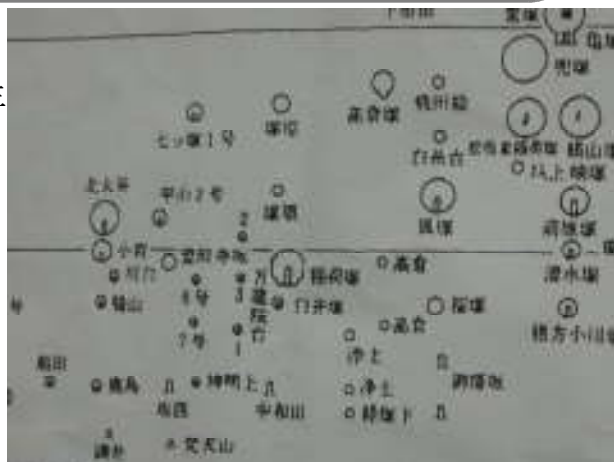
7月例会報告：「地域教材を生かした古墳の学習」

歴教協では、地域教材を取り上げることを大切に考えています。今月の例会では、その取り上げ方が難しい私立小学校の先生の手探り実践を聞き、効果的な資料の扱い、教師の教材研究の在り方を話し合いました。

ずいぶん前に他支部の例会のフィールドワークに参加した時の資料を探し出して、それを授業に活用するようすすめてくれたのです。こうして教師の学びは先輩から後輩へと受け継がれていくのですね。➡

おごぬき

<授業者 越後 貫 あぐりさんより>



区内在住の自分が、勤務校のある昭島市の学校周辺の地域情報を全く知らない。その地域を授業で子どもにどう伝えていけばよいのか？そこから始まりました。（←教師の教材研究が先!!）

①「古墳」のイメージは？

強大な権力の象徴→しかし本当は、各地域にある小さなものもある

②身近なところにあるお墓

その墓の集合体が、最終的には当時の朝廷の大きな墓＝「古墳」と考えさせていきたい。（身近→国全体）

- ③校区(地域性)の無い私立小学校での地域学習
地域とは何か？子ども達の共通した学びの出発点としての位置付け
- ④多摩川から荒川へ
古墳の授業を6時間扱いで組み立てる→私立小学校の特色を生かして
- ⑤地域を知らないのは教師も同じ
子ども達に伝えるべきものは何か・・・教師の地域めぐりの必要性
- ⑥教材としてとりあげたもの
「山ノ神遺跡、浄土遺跡公園、亀塚古墳、埼玉古墳、稲荷山古墳」
- ⑦大山古墳の扱い
天皇の古墳の大きさを実感する（ここで教科書・資料集へとつなげていく）
- ⑧子ども達の感想＝初めて地域を意識した6年生の思い

⑨授業を終えて見えてきたもの(課題を中心に)

- 資料の準備は？ ●授業での扱いは？ ●読み取らせ方は？ ●資料の数は？
- 時系列のおさえは？ ●フィールドワークのタイミングは？ ●グループ学習は？

⑩参加者の皆さんから

この日は、小学校の先生～高校の先生までが参加していましたので、それぞれの授業経験を通して、みんなで課題についてざっくばらんに意見交換をしました。これがこの日の報告者である越後貫さんには、一番役に立つ（ためになる）のです。

* 古墳の学ばせ方は難しいと思う。どこにでもある墓のことととらえられているが、そのこと自体も正確ではない。小学生には断定でなく、推量の授業でよいのではないか。最初から「古墳＝墓」と確定しては危険である。

* 資料の読み取らせ方は教師の教材研究が大前提であるが、どう教えたいかという教師の意図がしっかりしていないと、授業で子ども達が混乱する。

* フィールドワークは、数が多ければそれは理想だが、授業時間数の関係でそうもいかない。あまり、「いつ行かない」という固定観念を持たずに、「行ける時に行く」でいいのでは。きっと体験したことはあとでいろいろな形でつながっていくから。

* 小学生ならあまり時系列を意識しなくても、さかのぼることも可能なのでは。いつも古い方から新しい方へという形式張った歴史教育の方が課題なのではないかと思う。子ども達が興味をもって古墳について考えるようにすることが大切ではないか。その意味で、この授業の形式はアリだと思う。

* 古墳に掘りがある理由としては、中世の名主の建屋と同じで、灌漑用水としてや水の利権誇示の意味もあった。防衛策だけではないとされているように、諸説ある。

* 横穴式、竪穴式など古墳の作り方にも時代によって違いがある。どうしても古墳といえば副葬品が出るから「墓」のイメージが強いが、生前から造られていたことが多いというのは祭祀場の意味もあるし、その集落の中心的存在とするイメージもある。

* グループ学習に適した内容かどうかを教師がどう考えて授業を組み立てるかによるのであって、グループで学ばせることが良いという単純なことではないと言える。資料の与え方によっては、意見が無限に出てきて、收拾がつかなくなることもよくあるが、それは段階的に資料の読み取りを練習していないからである。もちろん出来た方がよいが。

* 今日、この報告で出てきた課題は、結局のところ、その教師がその授業で「何を学ばせたいのか?」、「どのような力を付けさせたいのか?」、「どういう学級にしていきたいのか?」、という学級経営の考え方が根底にあって、単純に授業の方法論だけでは語りきれない。さらにせつかくの私立学校の特性も活かさなければもったいないので、その辺りを今後もっと報告者自身が学びを深めていただければと思う。でも、この授業の一番の成果は、先生がもっと知りたいと思う気持ちだったのではないのでしょうか。

【参加者の感想より】

● 毎度自らこれだけの指導計画、目標のもとに実践されていることに敬意を感じます。ただ、今回の授業で取り上げた「古墳」など古代の教材については考古学上の説も多様で、今でもこれといった定説が少ないので、授業の取り扱いは難しいことも多いと思います。しかし、それが逆に「古墳の謎」として子ども達に興味をもってもらうのはよいことでしょう。今日は楽しく聞かせてもらいました。報告御苦労様でした。

● 私立学校の地域学習がどのように行われるのか興味があって参加しました。その地域を知らない子ども達にはなかなか特徴をつかませるのは難しいですが、今や公立学校も同様の課題はあると思います。そこをわかっている教師達が、「自分の足で歩いて地域を調べる」という前提がなければ、資料も集まりませんし、子ども達に伝えたい教材が浮かび上がるはずもありません。今回、とてもいい資料がたくさんあり、これなら直接その地域を知らない子ども達でも、興味をもって学習に入っていけるのだなあと感心しました。自分も取り組んでみようと思います。子ども達の感想に「行ってみたい」というのがありましたが、この授業を物語っていると思います。今日はありがとうございました。

● 私が受けた授業でした。多摩川流域の古墳・墓・変遷図から古墳時代をさぐるというのは、子どもにとっても楽しい授業だったと思います。その反応を見て、先生自身も楽しんでることがわかりました。成果と課題が明確で、授業実践レポートとしても素晴らしいです。

● 学校の裏、またすぐ近くにも「古墳」がある！これは子ども達にとっては、楽しかったことでしょうね。どの時代にも「地域」史を入れると、興味を持てると思います。先生が歩いて確かめた「感動」は、子ども達にも伝わり、より大きく「大山古墳」にたどりついて大王=天皇にいきついた時、先生の「やった」という気持ちが想像できました。それにしてもノートの文字のていねいなこと！しっかりと学習をしていることがわかりました。

● 子ども達が授業をすればするほど、新しい発見をして、うれしいとかわくわくするとか楽しんでいる様子がよくわかりました。先生が一生懸命に準備されたことが、子ども達に伝わった授業でした。

● 地域を勉強していくと、中央・全国のことがわかり、二つを比べて当時の様子をよく理解していることがわかります。そのために準備した資料がとても良かったですね。学習を深める資料になっていきたいと思います。今日は御苦労様でした。

● 資料でも「辛亥銘鉄剣と稲荷山古墳」の刀剣に書かれている文字や、十菱駿武さんの「多摩の古墳の分布と変遷」(早稲田大学出版部)など、大人が読んでも面白い資料ですね。それにしても、先の刀剣の文字の、「乎獲居臣=オウケノオミ」なんて大人でも読めないし、分かった時は少し賢くなった感じがします。

● 整理されてある「疑問」の内容を見ると、単なる疑問ではなく授業で学習したことが出てくる、次の授業へとつながるような質問が書いてあって、ああ、授業が楽しかったんだろうなということが推測されました。



● 子ども達の感想が、「授業の度に登場する古墳がだんだん大きくなって、面白かったです」とあるように、だんだん授業が楽しくなっていくのがわかります。他にも、地域を歩いたり、学習する中で初めて知ったこと、びっくりしたことがたくさん書いてありました。

● 啓明学園の「地域教材を取り入れた社会科の授業」という今年度の研究に、私自身も「地域資料の紹介」のお手伝いをさせていただいています。今回の古墳時代の授業で利用可能になった地域資料は学校の隣の地域から発掘された「山の神遺跡」(古墳時代のかまどのある竪穴住居)と「田中町の浄土遺跡」(村の首長層の古墳とみられる)、多摩川流域粕江の亀塚古墳、そして荒川流域埼玉古墳群の稲荷山古墳などです。授業の組立は越後貫先生のオリジナルで「地域の小さな古墳からだんだん大きな古墳、そして巨大な古墳へと調べていく方が子どもの興味を引きつけていくのではないか。」と考え、単元計画を立てられました。本日の授業記録と報告を聞いていても、子どもたちが一時間、一時間謎解きのような面白さを持って古墳を調べ、資料から多くの事柄を読み取っていったことが伺えます。各授業の授業計画も工夫されていました。歴史の入門期の単元で、歴史学習の面白さをねらいにした内容のある実践レポートだと感心しました。子どもたちの文にも歴史に興味を持ったことが記録されています。今後の実践にまた期待したいと思います。

● 地域学習から全国につながる学習、地域の事柄を調べていくと、全国と共通する物がある、全国のこと分かる、そういう授業だと思いました。楽しい授業をありがとうございました。今回は授業の前に先輩方からの親身の御指導があったそうで、そういうのも素敵ですね。

○授業者&報告者

自分の勤務校の地域の事について、何も知らずに、7年間も教師をしていることがはずかしいと本当に思いながら、諸先輩達に助けられて今回初めて地域教材の研究に取り組みました。特に、八王子支部の栗原先生には、全面的に授業の御支援をいただき、資料の用意、私への地域の歴史のレクチャーをしていただき恐縮しております。しかし、その中で自分自身が少しずつ発見をしていきながら、地域教材研究がとても楽しくなってきました。いつも通勤しているバスを途中で下車し、浄土遺跡公園に初めていって、「これが地域の歴史を見つけることか・・・」と実感しました。資料の扱い方、発表のさせ方、地域教材を使った社会科の授業の中で、基本的な授業力を高め、学級作りにも取り組んでいます。

今日は多くの先輩方から具体的なアドバイスをたくさんいただき、すぐに次の実践に活かせることが本当に嬉しく思います。本当にありがとうございました。



— 9月例会のご案内 —

残暑が続く9月は2学期が始まり、行事の嵐が押し寄せる時期です。特に、秋の運動会前の学校は忙しくなりますが、「マンネリ授業打破」のためには授業の視点を増やしていくことが大切です。土曜日の午後のひととき、そんな学びの機会を味わってみませんか？自主的な学びはより成果が高まると思います。多くの皆様の参加を、西八王子でお待ちしております。

【2012年 歴教協八王子支部 9月例会】 「授業づくり講座」

報告者：滝口 正樹さん(中学校社会科)
日時：2012年9月8日(土) 14:00~16:30頃
場所：台町市民センター (JR西八王子南口徒歩8分)

※例会の詳細につきましては、事務局の高田さん(2012年度からの勤務先=八王子第一小学校:042-642-0851)までお願い致します。